

木更津駐屯地における米海兵隊オスプレイ定期機体整備7機目の整備終了について

令和3年11月から陸上自衛隊木更津駐屯地において実施されていた米海兵隊オスプレイ7機目の定期機体整備については、令和5年7月に整備が終了し、同機は普天間飛行場に帰投しました。

同機の整備の経過と、整備にあたっての覚書の遵守状況については、以下のとおりです。

1. 整備の経過

(1) 7機目の整備の経過

7機目は、令和3年11月2日に木更津駐屯地へ飛来して以降、過去の整備機体と同様に、機体の分解・点検、所要の部品の交換といった定期機体整備作業が行われました。その後、令和5年6月1日からは、格納庫外において飛行前の各種装置等の点検作業が行われました。

令和5年7月3日に、ホバリングチェックと東京湾南部上空及び相模湾上空を使用した試験飛行が行われました。

令和5年7月3日に整備企業から米軍に機体が引き渡され、同機は4日に木更津駐屯地から帰投しました。

(2) 8機目、9機目、10機目整備の経過（現状）

8機目については、令和4年4月25日に飛来し、同月26日から整備が開始され、現在、格納庫内で分解・点検等が行われています。

9機目については、令和5年3月23日に飛来し、同月24日から整備が開始され、現在、格納庫内で分解・点検等が行われています。

10機目については、令和5年6月12日に飛来し、同月13日から整備が開始され、現在、格納庫内で分解・点検等が行われています。

2. 覚書の遵守状況

米海兵隊オスプレイの定期機体整備については、平成29年1月19日付で、防衛省、米軍及び富士重工業株式会社（当時）との間で覚書が取り交わされていると

ころ、7機目の整備にあたっては覚書に記載された内容が遵守されたことを確認しています。

8機目以降の整備についても、覚書の遵守を米軍及び整備企業に引き続き働きかけるとともに、遵守状況の確認を継続し、地元住民の皆様十分に配慮した形で定期機体整備が行われるよう防衛省としても万全を期してまいります。

3. まとめ

木更津における日米共通整備基盤は、日米安保体制の円滑かつ効率的な運用、日米オスプレイの整備の効率化等の観点から極めて高い意義を有する事業であるとともに、技術力の高い我が国の企業が整備を担当することは、我が国の上空を飛来するオスプレイの安全性の一層の向上に資するものと考えているところ、今後とも地元の皆様のご理解を賜りますよう深くお願い申し上げますとともに、引き続き防衛省としても適切な情報提供を行い、地元自治体の皆様と丁寧に調整をさせていただきます。

(参考)

<7機目の整備に係る経緯>

令和3年11月2日 木更津駐屯地への飛来

令和3年11月3日 定期機体整備開始

令和5年 6月1日 地上点検開始

令和5年 7月3日 試験飛行実施、定期機体整備終了

令和5年 7月4日 木更津駐屯地から帰投